

特集 「鍛冶屋街を語る」より

久保煉瓦工場



久保栄太郎は元々鉄道材料品の検査官だったが、煉瓦事業を始めるために退官し、山梨県で事業を起こした。

明治30年、北海道で煉瓦製造所ができ、栄太郎が招かれて経営を任された。

その際父を助けるために渡道したのが息子の兵太郎である。

栄太郎は独立して野幌煉瓦工場を創設するが、そのころから兵太郎が経営を任されていた。まもなくして閉鎖。

明治36年、久保煉瓦工場が止若市街に設けられ、ほどなくして善教寺前に移転した。

この煉瓦工場は営業用としては十勝管内でもっとも古い。

煉瓦工場は明治45年に閉鎖。

工場跡には煉瓦の不良製品が山のように積みれ、昭和の半ばころまでみることができた。

なお、兵太郎の二男が劇作家・演出家、そして小説家の久保栄である。